



未来へ
みらい

2005-2006
平成17年～18年



福井豪雨メモリアルミュージカル「橋をかけよう」の上演。美山の未来へ向けてエールを頂きました。

福井市 美山町 越廼村 清水
合併協定調印



未来へ

4市町村が
合併協定に調印

福 井市、清水町、越廼村との合
併調印式は2月25日に行われ、

平成18年2月1日の合併が正式に決
まりました。前年の5市町村による
合併協議会から鯖江市の離脱という
曲折はありましたが、最終的には福
井市を核とした人口27万人の「新福
井市」の誕生に向けて、各首長が握
手を交わしました。町内各地区では
住民説明会で合併後の新しいまちづ
くりなどが紹介されました。

任期満了に伴う3月の町長選では、
現職の有塚氏が再選され、豪雨の復
旧や合併までの道すがらが託されま
した。

2005
(平成17年)

美山の動き

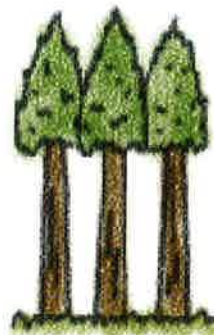
- 1月 ● 成人式 新成人78人
- コミュニティバスの運行開始(1月～3月
は試行運転)
- 2月 ● 町が郵便窓口業務を受託し、芦見簡易
郵便局が業務再開
- 4市町村(福井市・美山町・越廼村・清
水町)の合併協定調印式
- CATV敷設整備事業安全祈願祭
- 3月 ● 車屋正昭氏福井豪雨義援ライブ開催(3
月・5月・7月)
- 町長選挙 無投票で有塚町長が再選
- 4月 ● 放課後児童クラブ 下宇坂農村環境改
善センターでスタート
- 県内初、町が窓口業務委託 羽生郵便
局で住民票等交付事務取扱開始
- 5月 ● スギの花粉症治療研究拠点で全国初の
町と福井大学医学部が協定書調印
- 6月 ● 3保育所統合のみやま保育園落成
- 7月 ● 豪雨災害1周年で防災週間を設定
● 総合防災訓練
- 10月 ● 「愛・地球博(愛知万博)」にババーズ出演
● 美山中学校吹奏楽部、中部日本吹奏楽
コンクール本大会(浜松市)で3位入賞
- 12月 ● 21年振りの豪雪
- 町内全郵便局で住民票等交付事務取
扱開始

日本・世界の動き

- 「日本の動き」
- 青色LEDの発明対価の訴訟
約8億円の支払で和解
- 愛知県伊勢湾に、中部国際空
港開港
- 愛知万博開催 半年間で220
0万人来場。
- JR福知山線脱線事故(死者
107人、負傷者460人)
- 北海道の知床が国内で、3つ目
の世界自然遺産に決定
- 「世界の動き」
- 中国各地で約1万人の反日デ
モ
- ロンドン同時爆破テロ
- アメリカで過去最大級のハリケ
ーン「カトリーナ」上陸
- 国連が創立60周年

流行歌・ワード

- ♪ Butterfly (倅田来未)
- ♪ 桜(コブクロ)
- ★ 小泉劇場
- ★ 想定内(外)



コミュニティバスの 運行開始

町内での公共交通空白地域を解消し、住民の利便性の向上と日常生活の活性化が期待される、コミュニティバスが4月から運行を開始した。1月から3月までは試行運転。乗車料は一律100円。



町と福井大学医学部が 協定書調印

町と福井大学医学部が連携し、花粉症治療研究を進めるため、施設利用に関する協定書に調印した。スギ花粉症治療研究センターとして、下味見生涯教育施設(旧下味見小)が活用される。



車屋正昭太鼓道場が 福井豪雨義援ライブ

和太鼓奏者、車屋正昭さんが、「災害に負けず輝き、がんばってほしい」と被災した町民らを対象に、福井豪雨義援ライブをこの年3回開催した。エネルギーあふれる演奏と幻想的な雰囲気にもまれ町民らは元気づけられた。



みやま保育園の 落成式

乳児保育や延長保育など多様化する保育ニーズにこたえるため、町内3つのへき地保育所を統合し、木造平屋の木の香漂う、みやま保育園が落成した。
子育ての充実を図るために、子育て支援センターも併設された。



当時のトピックス



豪雨災害1周年防災週間を設定

福井豪雨の教訓を生かそうと町では、7月18日～23日を防災週間に設定し、18日には総合防災訓練を実施した。この日、「福井豪雨モニュメント除幕」「人と川との共生会議」「福井豪雨メモリアル展」など町内各地で豪雨関連の行事を展開した。

劇団ババース 愛知万博に参上

7月「愛・地球博」の会場で、蔵作のお年寄りによる劇団「ババース」がオリジナル劇を上演。大舞台にもかかわらず、いつものペースでユニークなアドリブを連発。会場の人達を楽しませた。



美山 閉町式



未来へ

閉町式で 歴史にピリオド

2006
(平成18年)

美 山町としての歴史に
ピリオドを打つ閉町
式は、1月22日午前10時か
ら、木ごころ文化ホールで
行われました。関係者約
300人が出席し、町を閉
じるに当たっての有塚町長
の式辞、功労者表彰などが
あり、最後に町旗が降ろさ
れ、閉町という歴史的な瞬
間を見届けました。



美山の動き

- 1月 成人式
- 新成人55人
- 閉町式
- 閉庁式



「発展的な 終わりの時」

式典の前に、「美山50年のあゆみ」と題した映像が流され、昭和30年の旧6力村の合併により誕生した美山村の成り立ちから、町制施行を経て、昭和から平成の時代の中での美山町の主な出来事などが、スクリーンに映し出されました。

式典は石田助役の開式の辞で始まり、有塚町長が式辞を述べました。この中で有塚町長はまず「町民の皆さまのたゆまぬ努力と郷土愛により、町が確実に進展してきたことに対し、感謝と敬意を表します」

と約50年の歴史を支えてきた町民の功績を讃えました。続いて町が手がけてきた各種事業や施策について振り返り、16年7月の福井豪雨にも触れ「一瞬にして泥海と化した町になりましたが、町民の不屈の精神力で災害復旧も順調に進みました」と述べました。最後に「時代の推移とともに、発展的な終わりの時を迎えます。新福井市の中で、新たな出発を前にした発展のための終結です。町内の山積している課題は新市に引き継ぎます。ますますの発展を願っています」と、式辞を締めくくりました。



式辞を述べる有塚町長



美山中学1年生が「ふるさと」を合唱

この後、高瀬町会議長のあいさつ、中学校生徒による国歌斉唱に引き続き、町の発展に尽くした37人、10団体の表彰を行い、来賓の旭県出納長、酒井福井市長、杉本池田町長、松村、山崎、稲田の各本県選出国会議員の順で、あいさつがありました。引き続き美山中学校の一年生37人がステージの前に整列し、

「時の旅人「ふるさと」の2曲を合唱。最後に、ステージに掲げられた町旗が、石田助役、前川教育長によって降ろされ、有塚町長の手に渡されて、式典を終えました。

また、この日は、式典の後、アトラクションとして河内区に伝わる「チヨイヤサー踊り」と「越前美山音頭踊り」が披露されました。



「未来へ」平成17年～平成18年